

和歌山病院での実習を終えて



若松 大揮

今回、呼吸器内科での実習の一環として11月20日～21日の2日間、和歌山病院で実習を行わせていただきました。短い期間でしたが密度の濃い充実した実習内容であり、非常に有意義な時間を過ごすことができました。

南方院長の胸部X線セミナーでは、読影の基礎から丁寧に教えていただきました。セミナーの進め方が、教えていただいた基礎をもとに自分で思考して解答を導く方式であったため、X線画像を読影していくときの過程についての理解が深まりました。また、気管支体操を通じて、肺の区域の位置関係について立体的に把握することができました。頭で暗記することが難しいことも、身体を使って覚えることで非常に簡単に覚えられるということに驚きました。これからも気管支体操を身体で覚えるまで定期的に行っていきたいと思えます。

また、ご多忙の中、南方院長とのご会食の機会をいただきました。そのときに南方院長にお話しいただいた御坊市にまつわる宮子姫のお話がとても印象に残っています。医師として自分の勤務する地域の自然や文化について理解しておくことは、その土地で働くうえで、仕事の場面に限らずその地域の人々とコミュニケーションをとることにおいても非常に重要であることを再認識しました。

今回の実習で学んだことをこれからの臨床実習に生かすとともに、一つ一つの物事について考えをより深め、自分の理想とする医師になれるよう精進していきたいと思えます。

最後になりましたが、今回の実習に関係していただきました、南方院長、駿田副院長、並びに和歌山病院のスタッフの皆様に心から感謝を申し上げたいと思えます。有難うございました。